

An aerial photograph of the Ishikawa Industrial High School campus. The main building is a long, multi-story structure with a grey roof and many windows. To the left is a large parking lot with several cars. In the foreground, there's a green field with some trees. The background shows a residential area with many houses and a road. A large title is overlaid on the top half of the image.

旭川 七十年史

北海道旭川工業高等学校

旭工
七十年史

目 次

旭工70年史

創立70周年を慶ぶ

挨拶

■ ごあいさつ	創立70周年記念事業協賛会長	西山陽一	5
■ 創立70周年記念誌発刊について	北海道旭川工業高等学校長	川崎博正	6
■ 記念誌の発刊に寄せて	北海道教育委員会教育長	高橋教一	7
■ お祝いのことば	旭川市長	西川将人	8
■ 開校70周年を祝し	北海道旭川工業高等学校PTA会長	弓場朋子	9

校歌	10
----	----

校舎全景・朝日子の館・校訓・校旗	12
------------------	----

旭工の1年(全日制・定時制)	13
----------------	----

振り返る写真(甲子園も含む)

旭工の歴史	21
-------	----

全日制・定時制課程沿革史

各科の紹介	29
-------	----

全日制・定時制

PTA活動のあゆみ	35
-----------	----

クラブ活動の紹介	39
----------	----

全日制・定時制

生徒会長70周年を迎えて	49
--------------	----

全日制課程生徒会長	大泉龍馬
定時制課程生徒会長	荒碧美

校務分掌	50
------	----

全日制課程・定時制課程

教職員名簿・旧職員名簿	51
-------------	----

全日制課程・定時制課程

資料・巻末	56
-------	----

創立70周年記念事業業務組織図・創立70周年記念事業協賛会役員

編集後記	58
------	----

題 字 遠藤康浩

創立七十周年を慶ぶ



ごあいさつ

創立70周年記念事業協賛会長 西山陽一

3月11日東日本大震災がおこり日本全体が恐怖と悲しみに暮れた日々が続きました。記念事業の縮小も考え何度かの役員会を開き役員・学校側のご意見も聞き進めてまいりました。今や、我が国の社会は、国際的にも幾多の課題を抱え、又経済の不景気と、その、解決や、対応が強く求められています。それぞれの課題を、正しく認識し、解決する力を持つ努力や勇気がいまだこそ必要と思います。

東日本大震災の復興が一日でも早く進められますよう心よりお祈り申し上げます。

ここに北海道旭川工業高等学校創立70周年の記念式典及び記念事業が举行できますことを、皆様と共に喜び合いたいと存じます。母校は昭和16年4月の開校と同時に旧制第一期制129名が入学とお聞きしておりました。工業化学科・建築科・土木科の三科の設置をもってスタートされました。仮校舎での授業で旭工の歴史が初まりました。現在は電気科・電子科が情報技術科・機械科が電子機械科・自動車科があり一部科名が変更になっている科もありますが全日制・定時制合わせて1,000名以上の生徒を持っているマンモス校でもあります。これまでに2万人以上の卒業生を輩出しております。その活躍は管内・道内はもとより全国に至って旭工健児の名を知らしめて来ました。

創立70周年の節目を迎えます。事業としましては朝日子の館（同窓会館）外壁塗装・タイルの補修・一部開口部の設置などの整備、学校林の伐採、植樹の整備・創立60周年には歴代会長故山下弘氏の念願でした慰霊の祭典を行いました。又今日の繁栄を見ないままに他界された恩師教職員並びに同窓生の御霊に対し、感謝の誠を捧げたいと思いから、創立70周年でも慰霊祭を行うよう計画を致しました。

母校の部活動に於かれましても、各部共に、以前にも増して活発になり、特に文化系の新聞局・放送局・写真部・演劇部とものづくり大会での活躍が目立ち支部大会・全道大会・全国大会へと多くの部が優秀な成績を残しています。運動系では陸上部が個人競技で毎年全国大会に駒を進めております。又、野球部も平成17年には4回目の甲子園出場をはたしました。結果は惜敗でしたが全国の人々に旭工の名を広めた意義は非常に大きいものがあります。旭工の教訓「信頼される人になれ」と云う言葉で、誠に易しく簡単なようではありますがその中味につきましてはなかなか厳しいものが要求されております。生徒諸君も「信頼される人になれ」の校訓を胸に、これからは充実した勉強と部活動に励み、今後永遠に続く旭工の歴史と伝統を守って頂きたいと念願する次第です。

おわりにあたり、これから益々隆昌発展する旭工のために、皆様方の以前にもまさるお力添えを切にお願い申し上げ、私の心からなるお祝いのことばといたします。



創立七十周年記念誌発刊に寄せて（歴史と伝統の礎）

北海道旭川工業高等学校長 川 崎 博 正

開校して70年の年月が過ぎ、卒業生も23,000人を越える歴史と伝統ある工業高校と発展し、優秀なる工業人を地元旭川は元より全道、全国に輩出してまいりました。70年を振り返るに当たり、旭工の歴史と伝統の礎となる物事の始まりを繙いてみました。

昭和16年2月25日文部省より、応用化学、建築、土木の三学科が設立認可され、北海道庁立旭川工業学校と称しました。同年4月21日（月）旭川市養正国民学校（現旭川市立明星中学校）を仮校舎とし、代島元一初代校長により屋内体操場にて十時より入学式・開校記念式典が挙行され、応用化学科43名、建築科43名、土木科43名、計129名の入学が許可され、旭工一期生が誕生したのです。そして、教職員11名と共に教職員・生徒140名が旭工歴史の第一歩を踏み出しました。

定時制は、昭和16年4月23日に旭川市立旭川商業学校という名称で北海道庁立旭川商業学校に併設で開校しますが、戦時非常措置により昭和19年4月学科転換して旭川市立工業学校となり、土木科・建築科の二学科を設置する。昭和23年4月1日学制改革により旭川市立工業高等学校と改称し本校に併置する。昭和25年3月31日定時制通信教育振興法により夜間課程は定時制課程となる。

同窓会は、昭和18年12月23日、第1回卒業式終了後、屋内体育館にて同窓会発足式を行い、工業化学科40名、建築科32名、土木科39名の計111名の卒業生で発足する。初代会長には代島元一初代校長が、2代目には昭和19年8月に田口操敏2代校長が、3代目には昭和24年11月に鍛冶二郎3代校長がそれぞれ就任し、昭和25年3月7日に4代目会長として卒業生である山下弘氏（建築20年卒）が選出される。昭和26年9月19日開校10周年記念行事として大休寺にて慰霊祭を行う。

開校以来、時代の変化に伴い幾多の変遷を経て、現在は全道唯一、7学科を設置し道内の工業教育の先陣を切っています。就職では厳しい社会状況の中、地元企業は元より全国の企業から高い評価を受け、内定率は高い状況です。進学も国公立大学を始め私立大学・専門学校などに多数合格しています。部活動では、野球・バスケットボール・バドミントン・サッカー・テニス・ラグビー・陸上・放送・新聞など全道大会はもとより全国大会に出場するなど文武両道でも知られています。これも多くの先輩達がこれまで築いた歴史と伝統です。開校70年の歴史の中には一言で表すことのできない沢山の苦労と苦難の道程を経て、今日の旭工があります。先達が築いた伝統と歴史をしっかりと受け止め、後輩に引き継いで行くことが我々の使命と心がけています。

最後になりますが、創立70周年記念事業協賛会を設立し、記念式典を始め、記念事業の遂行にあたりご尽力いただきました同窓会・PTA・地域の皆さまには多大なるご尽力を賜り、衷心より感謝とお礼申し上げます。また、本記念誌に玉稿を賜りました皆さまにお礼を申し上げますと共に、本誌編纂に携わりました関係の皆さまに感謝申しあげ、記念誌発刊の挨拶といたします。



記念誌の発刊に寄せて

北海道教育委員会教育長 高 橋 教 一

北海道旭川工業高等学校が、このたび、創立70周年を迎え、ここに、記念誌を刊行されますことに心からお祝いを申し上げます。

顧みますと本校は、昭和16年に、時代を開く有為な工業系の人材育成を目的として、地域社会の大きな期待を担って、北海道庁立旭川工業学校として開校いたしました。その後、昭和25年には、北海道旭川工業高等学校と改称、昭和33年には、自動車科を新設するなど幾多の変遷を経て、今日に至っております。この間、本校を卒業された方々は2万3千名を超え、道内はもとより、全国各地において、様々な分野で活躍されておりますことは、誠に喜ばしい限りであります。

本校では、「信頼される人になれ」の校訓の下、豊かな人間性と広い視野をもち、進んで社会の発展に貢献できる人材の育成に努め、地域や保護者の皆様の厚い信頼を得るとともに、伝統ある工業高校として各方面から高い評価を得ております。とりわけ、道内の他の工業高校と技術を競い合った計算尺競技大会では、昭和46年から4回の全国大会出場を果たしたほか、平成19年と平成21年には「高校生ものづくりコンテスト全国大会」に出場し、いずれも全国第3位に入賞するなど、輝かしい成績を残しております。また、近年においては、平成16年度から3年間、文部科学省の「日本版デュアルシステム」の指定を受け、地域の企業と連携して、職業人にふさわしい資質を持った生徒を育てるための効果的な企業実習の在り方について実践研究を行うほか、平成21年度から3年間、道教委の「専門高校Power Upプロジェクト推進事業」の指定を受け、大学や地域企業等と連携し、将来の地域産業を担う実践的な能力の育成や高度な資格取得に係る実践研究に取り組むなど、道内の工業高校のモデルとなる大きな成果を上げております。さらに、部活動においては、野球部が夏の甲子園大会に平成3年の初出場以来、4度の出場を果たしているほか、多くの部が全国大会や全道大会へ出場するなど、輝かしい実績を上げております。

本校が、今日までこのように発展を遂げてきましたのは、歴代校長をはじめ教職員の皆さんの尽力と生徒の皆さんの努力、さらには、PTAや同窓会、地域の皆様方の温かい御支援と御協力の賜であり、ここに深甚なる敬意と謝意を表するものであります。創立70周年を契機に、生徒の皆さんには、これまでの輝かしい学校の歩みを改めて振り返るとともに、多くの先輩が築いてこられた歴史と伝統を受け継ぎ、志を一層高くして、次代を担う若者として、新たな伝統を築かれるよう心から期待しております。また、教職員の皆さんには、将来の北海道を担うにふさわしい、自立の精神にあふれ、様々な困難を乗り越えながら新しい時代を切り拓いていく生徒の育成を目指し、本校の教育の充実と発展に一層力を発揮されるようお願い申し上げます。結びに、本校の教育の振興にひとかたならぬ御尽力をいただきました関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、本校の益々の御発展を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



お祝いのことば

旭川市長 西 川 将 人

北海道旭川工業高等学校が、創立70周年の輝かしい節目を迎えられましたことを心からお喜び申し上げますとともに、記念誌発刊に当たられました関係者の皆様の御尽力に、衷心より敬意を表します。

昭和16年、北海道庁立旭川工業学校として創立され、歴史の第一歩を踏み出されました。

貴校は当初、全日制課程に3学科が設置され、その後、改称や定時制課程の設置、新たな学科の設置を経て、現在は、全日制課程7学科、定時制課程3学科において、たくさんの生徒の皆さんが工業についての専門技術や知識を習得すべく日々勉学に励んでおられますことと存じます。

時代は流れ、現在の社会や生活は随分と変化しましたが、「信頼される人になれ」という校訓は昭和25年に制定されてからずっと変わらず在校生へ脈々と受け継がれ、貴校に根付いておりますが、その校訓を胸に社会からも信頼される人となり学舎を卒業した生徒は2万3千人を超え、本市のみならず日本全国、世界各国において活躍され、経済成長や工業技術の向上を支えております。

一方で、日本の工業を支えるスペシャリストとなるべく勉学に励まれながらも、クラブ活動にも力を注がれ、全道大会はもとより全国規模の大会においても優秀な成績を収められており、まさに文武両道であります。

これもひとえに歴代校長をはじめ、地域の産業技術の次世代の担い手となる有為の人材を育成することを主眼として、日夜教育・指導に当たられている教職員並びに父母の皆様をはじめとする関係者の皆様方の不断の御精励の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

工業技術のつきましては、各分野において日進月歩の時代を迎えております。その中であって我が国は常に高い技術を誇る先進国として、世界においてもゆるぎない地位を確立しておりますが、今後とも我が国の大いなる前進と飛躍のため、一層の努力を重ねられ、技術の向上に貢献されますことを期待申し上げます。

また、新しい時代を担う生徒の皆さんにおかれましては、「信頼される人」になれますよう人間の豊かな個性を伸ばし、将来についてよく考え、夢に向かって大きな一歩を踏み出し、強くたくましく成長されますよう心から念願いたします。

結びに、この度の開校70周年を節目として、北海道旭川工業高等学校が更に大きく発展されますとともに、関係の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を心から祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



開校70周年を祝し

P T A 会長 弓 場 朋 子

北海道旭川工業高等学校が創立70周年を迎え、記念式典が举行されますこと心からお祝い申し上げます。

昭和16年に北海道庁旭川工業高校として開校し、その後校名変更や学科改変など幾多の変遷を経ながら北海道旭川工業高校として今日に至るまでの70周年間は激動と変革の年月であり、旭川工業高校の残してきた軌跡はは見事なものであると確信しております。

校訓である「信頼される人になれ」のとおり優れた多くの卒業生の角界における活躍ぶりもまた輝かしいものです。

又同窓会の皆様のご理解とご支援を賜り、今日の情報化時代に対応すべく情報教育の環境改善が図られ、就職や進学へ取り組む子供達の資質向上に大きな夢と希望を与えて下さっていることに心より感謝とお礼を申し上げます。

先輩方の培ってこられた伝統の重みを受け継ぎ、子供達は文武両道で運動部、文化系共に全道大会に進み、また、工業高校ならではのものづくり大会においても輝かしい成績を残せたことは旭川工業高校の誇りでもあります。

そして、子供達の資質を最大限に引き出し誇りを抱ける様、導いて下さる先生方の指導力の賜と感謝致しますと共にこの学校を巣立っていく子供達の未来に旭工で養ったことを糧として「夢と希望」を実現すべく大きな飛躍があることを確信致します。

本日記念式典に多数のご来賓をお迎えをして盛大に式典が举行されますことは、大変意義深く名誉と存じますと共に関係各位、同窓会、諸先生の皆様に感謝致します。

旭川工業高等学校が素晴らしい伝統を継続し、新たな世代へ引き継がれ更なる飛躍を願うと共に、校長先生初め諸先生方の今後の益々のご健勝とご活躍を御祈念申し上げます。

旭工校歌

作詩 安 保 徳 輔
作曲 さ とう とも きち
佐 藤 朋 吉

はつらつとして $\text{♩} = 112$

mf

きん う はば た く たい せつ ざん ー に かぎ

ろい たー てる この あさ ぼ ら け ああ せい し ゅん

の ほ む ら は か く ぞ も ゆ る も ゆ る われ

f

ら の い の ち は え ある に わ に あ さ ひ こ み ち め

1. 金鳥搏く 大雪山に

かぎりひ立てる この朝ぼらけ

ああ青春の ほむらはかくぞ

燃ゆる燃ゆる 吾らのいのち

栄えある学苑に 朝日子満ちぬ

2. 沃土育む 石狩川や

田野は萌ゆる 緑のいぶき

ああ生長の その逞しさ

躍る躍る 吾らの血潮

希望はてなく 春秋若し

3. 大地の磐に 礎すえて

千磨不撓の 腕に魂に

今建設の 槌打振う

滾る滾る 吾らの力

久遠の空に 理想は招く

4. 誰が手に握る 万化の秘鍵

創意をこめよ 飛電の光芒も

窓に親しき 灯と笑むぞかし

奮え奮え 工業学徒

忍苦の技に 光明現れむ

5. 時は移ろひ 世は変るとも

正しき者は ついにぞ勝む

ああ高鳴るよ 此の身さながら

行けや行けや 平和の戦士

民族の道 雄々し遙けし